

熊本県新分野進出モデル事業

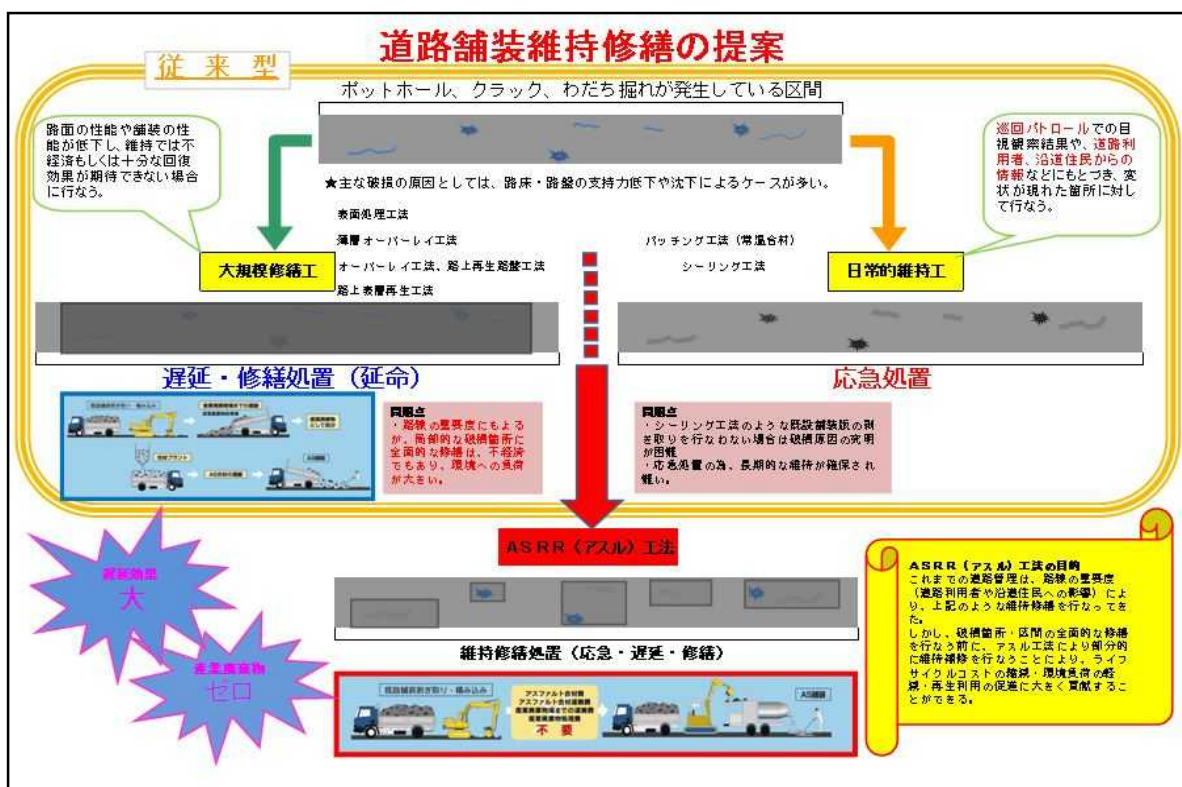
会社概要

会社名	株式会社 九 建
代表者	代表取締役 新 永 隆 一
所在地	熊本県鹿本郡植木町岩野1375
資本金	50,000千円
従業員数	20名
URL	http://www.kyuken.jp/
事業内容	

移動式アスファルト再生プラントを用いたASRR工法による道路維持補修工事

事業概要

事業概要として、ポットホール、クラック、わだち掘れが発生している区間を、移動式アスファルト再生プラントを用いたASRR工法により、現地発生材(廃アスファルト)を100%再利用し、道路維持補修工事を行うものである。



事業背景と動機

事業背景として、交付税の削減により、緊縮傾向にある地方財政にあって弊社も含めた中小の土木建設業者は厳しくなる一方でございます。ただ、公共事業も「新たな投資」から「維持保守管理」へと方向が変わりつつあり、特に道路維持補修事業に関しましては現状維持か、もしくは増えつつある傾向です。そこで、この道路維持補修という市場に新たな活路を見いだせたら、地方業者の助けになるのではないかという思いから新工法の研究開発に取り組みました。

活用した経営資源

- ・平成17年度 熊本県中小企業経営革新等事業補助金
計画名:「移動式アスファルト再生プラント」
- ・平成18年度 熊本県戦略的事業化推進事業補助金
計画名:新商品開発事業「道路管理サポートシステム・プロトタイプの開発」
- ・平成18年度 熊本県戦略的事業化推進事業補助金
計画名:販路開拓事業「ASRR(アスル)工法協会設立による全国販路開拓」
- ・平成21年度 経済産業省新事業活動促進支援補助金(新連携支援事業)
計画名:「移動式アスファルト再生プラントを用いたASRR工法による道路維持補修工事の事業化」

事業の推進体制

コア企業の(株)九建は、永年の道路維持補修工事でのノウハウを活かし、独自の工法(ASRR工法)を開発した。コア企業として事業全体の企画、ASRR工法やユニットの設計、ASRRユニットの組立・販売、自社受注工事分の施工を行う。

連携企業の一社である開盛機械工業(株)は、幅広い建設機械の製造ノウハウを持つと共に、ASRRユニット炉体の製造・改良・整備ノウハウを保有しており、その技術を活用する事によってコア企業の持つアスル工法の実現が可能となった。またさらなる工法の改良・改善にも積極的に関わることが可能であり、その体制もできている。連携体では主にASRRユニット炉体の製造を行う。

もう一社の連携企業であるフロンティアビジョン(株)は、土木工事の現場工事経験を生かして建設業向けITシステム構築の経験、ノウハウを保有しており、そのノウハウを活用することによって、ASRR工法を有効に活用し、管理業務の効率化にも有効なITを使った道路管理サポートシステムの構築が可能になった。連携体では主に道路管理サポートシステムの構築を行う。



販路開拓・顧客開拓・差別化戦略・競争戦略

【販売ターゲット(顧客)】

ASRR工法のターゲットは「一般都道府県道」と「市町村道」であり、工事を発注する地方自治体と施行を行う土木建築業者を中心に普及を図っていく。実際の販売は、地方自治体に道路管理サポートシステム(サーバー使用料)を、土木建築業者にはASRRユニットと道路管理サポートシステム(サーバー使用料)の販売を考えている。

【販売価格、価格決定方針】

- ・ASRR工法による請負工事 / 1 m² 2,300 円
* 各県で単価(労務費、燃料費等)の変動あり
- ・移動式アスファルト再生プラント(=ASRRユニット)販売 / 一式1,400万円
* 製造原価 + 販売費・一般管理費 + 営業利益
- ・道路管理サポートシステム(サーバー使用料) / 月額2万円

【販売方法とPR方法】

マーケティング調査活動の推進

展示会や見本市への積極的な出展、パンフレット・CD・ポスターなどの広報媒体によるユーザーニーズの調査などのマーケティング調査活動を推進する。

人的ネットワークによる自治体及び土木建築業者への説明会およびデモンストレーション

自治体OBや同業者(土木建築業者)のネットワークを活かし、ASRR工法の説明会及びデモンストレーションを行う。すでにネットワークを通じて、高知県での正式受注が決定、岡山県や佐賀県など熊本県外からの引き合いも来ている。

ASRR(アスル)協会による情報発信と普及活動の強化

現在全国普及を考えて、施工協力会社及び販売代理店等で構成する有限責任事業組合を設立し、入会することでのメリットを明確にした上で、HP上で入会募集を行っている。まだ協会として十分な機能を果たしていないが、当該事業を通じて、より強力な協会組織体制と事業推進体制を構築し、ASRR工法普及と移動式アスファルト再生プラント(ASRRユニット)販売の積極的な営業・PR活動を押し進めていく。

道路管理サポートシステムの導入による提案営業の推進

国は道路維持管理において「事後保全」から「予防保全」への考えを基に、戦略的な管理手法の導入を積極的に押し進めている。

そこで、いち早くそのニーズを取り入れた道路管理サポートシステム(ITシステム)を開発し、ASRR工法と合わせてPRしている。

道路管理サポートシステムとは道路の現況を調査しデータ入力しておくことで、工事箇所の優先順位や、またいつ頃には補修工事を行った方が良いかなどの先の計画を立てやすく、結果として効率的な維持補修工事の中長期的管理計画を立てられるシステムである。

このサポートシステムとASRR工法を連動させることで、計画的且つ継続的な維持補修管理ができるのはもちろんのこと、工事費の削減や環境負荷の軽減も図られることから、単なる施工のみの競争ではなく、地方自治体に対して提案営業という差別化が図れる。

今後の展望

現在は、熊本県内の市長村及び県外は佐賀県、高知県、今回沖縄県の与那国町と全国に向けてPRを進めてきましたか、必ず言われるのが機械の能力UPです。

現在、ユニット2～3台を仮設的に設置し対応しています。

今後の課題としては、機械の大型化と品質確保について研究を進めていきたいと思えます。

代表者からの一言

政権交代も終わり新しい時代の幕開けとなりましたが、政治が安定するまでしばらくかかると思われます。特に政治と関係深い建設業は、先の見えない不安定な状況下での氷河期の真ただ中にあります。たぶんこれから先も今までの様な建設天国には戻らないと思われま

す。そんな中、建設業として生き残るためには、建設業界から離れた視点での物の見方、考え方が必要になってくるのではないのでしょうか。

たとえば、建設業界が中心となり地域活性化を目的とする旅行業・飲食業・旅館業とのコラボレーションの中で生まれてくる建設工事のような発想の転換が必要だと思えます。

また、熊本には新しい技術を持った中小企業がたくさんあります。新技術は産業の宝です。熊本は全国ネットを目指すとともにアジア戦略を視野に入れて行動するべきです。業界が一丸となってアジアへ進出しましょう。